

高梁市まち・ひと・しごと有識者会議（第3回）会議要旨

日 時：令和7年11月5日（水）15時00分～16時40分

場 所：高梁市図書館 4階多目的室

出席者：委員 別紙名簿のとおり（欠席：三村委員、竹本委員、水谷委員）

市 山川部長、赤木部長、波戸参与、内田部長、妹尾部長、藤井部長

庶務 大森秘書企画課長、宮田課長補佐

1 開 会（15：00）

2 あいさつ 井勝委員長

3 議 題

（1）総合計画後期基本の策定について（各種アンケート結果、施策体系等）

【質疑・応答】

○高梁市としては、外国人人材を活用していくという方針で良いのか。

⇒人口減少が進行する中で、企業にとっては新卒の学生だけでは人材を確保できないため、これまで以上に外国人人材を活用することになるであろう。市長からも、外国人の定住に力を入れていく必要がある旨の話が挙がっている。今回のヒアリングでは、市内で働く外国人が抱えている課題がないかを確認し、外国人市民にとっても住みやすいまちづくりに活かすために実施した。

○中山間地域はどこも同じような計画になってしまうのは仕方ないが、高梁市らしさが表れるような、高梁市は今後5年間で何をするのかが明確に示される計画にしてほしい。

○どのようなまちを目指すか、また、まちの特性によって指標の取り方は変わってくる。豊かさを測る指標として、GDPは世界的に使われている指標だが、HPIやGNH（ブータンで使われている指標）など、国の適性に合わせた指標を使用しているケースもある。高梁という地域に合った指標を検討・作っていく必要があるのではないか。

○人口が15,000人になった場合、どのようなまちになるのかのシミュレーションが必要。10年後のまちの状態から逆算して考えていく必要があると思う。

○生活にどのように影響するのかがイメージできるものがあると良い。

○人口が減少した場合の適応策を検討する必要がある。今後5年間の社会状況の変化については、市の方でも調べておいてほしい。

○市内就職を検討したことがない人が94%というのは衝撃的な数字。これまでも同様の結果だったのか。

⇒これまでこのようなアンケート調査を実施したことがなく、把握できていなかった。ただ、毎年市内就職者が、10人未満が続いている状況が物語っているのかと思うが、市としてもかなり厳しい状況であるという認識。

○新しいこども園ができたが、ほとんどPRされていないのが残念。隣の総社市では人口が増加し、待機児童も増えている。高梁市は良い意味で空いているため、もっとアピールできないかと思う。また、仕事に関して、高梁小学校で初めて地域の大人を呼んで仕事の話をする会を設けたところ、子どもたちの反応は非常に良かった。子どもの段階で地域の大人や仕事など、地域の面白いことを知る機会は重要ではないか。市の魅力的な仕事や大人をほとんど知らずに転出してしまうのはもったいない。高校生の居住意向では「まだわからない」人が半数近くいる。高校生の段階で住み続ける地域を決めるのは難しいが、将来的に「高梁市に住んでも良い」と思ってもらうためにも、20代の市内定住意向について、より詳細に調査しても良いのではないか。

○重要な指摘だと思う。また、アンケートは重要だがアンケートだけに頼るのも良くない。大学生は高梁市内での就職に限らず、そもそも「就職を検討したことがない」人が多く、アンケート結果のみを信じてしまうと、事実を正確に把握できない場合もある。

○小学生に備中町の良いところを見つけようと、ピオーネやトマトなどを栽培している環境を見てもらい、感じたことを発表する機会を設けている。子どもたちが考えたピオーネやトマトのレシピを、ゆめタウンで市民に振る舞ったこともある。そのような経験をする、子どもたちの食材や備中町への関心が変わる。子どもたち向けに高梁の魅力を感じ取る機会づくりが必要ではないか。また、地域で農業をしている立場として、普段市との繋がりはいらない。計画策定においては、現場の声も聞いて反映したものを作ってほしい。

○高梁市の魅力を伝える教育は非常に重要だと思う。

○スポーツ少年団に参加すると、他の学年・学校の子と関わり、それが地域への愛着につながっているように見受けられる。地元の人を好きになってもらうことが最も重要だと思う。

○施策体系について、案3が最も分かりやすいと思う。ただし3つ目の「まちづくり」は抽象的で分かりづらい。市として新しい挑戦や市外から来た人に対してウェルカムな印象を与えるアピールができると良い。

○KPIをどのように設定するかは重要。幸福度に影響する4つの因子があるが、主観的な考え方にとどまらず、客観的な指標にしていかないと、まちづくりに活かすのが難しい。担当課を含めて検討してほしい。

○優先順位を付けて実施すべき。計画を推進しないと、失敗か成功かも分からない。

○まちづくりに長年関わっているが、地域の人が疲弊している状況がある。立地適正化計画で生活エリアを中心部に集約するだろうが、そのエリア外にも地理的な条件で住む人がいる。その人たちのことも考慮してほしい。

○郡部に住んでいるが、自分が地域で一番若い。そうした状況を見ている子ども世代が将来帰ってくるのは難しいのではないか。地域住民の負担感を減らしていくことが重要だと思う。子どもがいるが、地域の人との繋がりを大切にしており、そのために地域にいたいと思っている。負担感を減らせれば、より住み続けられると思う。

○宇治高校の学生は宇治からではなく、下宿して通学している。高齢化が進んでいるため、下宿の子どもたちの声が聞こえるのは地域にとって良いこと。受け入れにあたっては食事など大変な面もあるが、市も力を入れており、引き続き協力をお願いしたい。

○そのような取り組みを通じて地域との繋がりが生まれ、この地域で暮らしていきたいという思いにつながっていくと思う。

4 閉 会（16：40）